

東京地方壮年連合通信 vol.84

TOKYO SOHNEN RENGOH TSUUSHIN 2019年12月15日

東京地方連合壮年会に期待すること

品川バプテスト教会牧師 山中臨在（やまなか ともなり）

全国壮年大会に、2011年に初めて出席しました。天城山荘で行われたこの大会で奏楽を依頼されていたから参加したというのが正直なところで、壮年大会がどんなものなのか全くわからず、それほど大きな期待をするわけでもないままに天城に出かけて行きました。実はその1年ほど前に、9年間住んでいたアメリカから戻ってきたばかりだった私は、日本の教会の様子に少し戸惑っていました。皆とても真面目なのだけれど、何かイキイキとした熱さがないように感じていたのです。その中でも特に壮年の方々に覇気がないと思っていましたが、ビジネスマンの友人に聞くと、「おまえのようにビジネスマンの経験がない奴にはわからないかもしれないが、普段社会の荒波にもまれてがんばっている人たちは、教会にいる時くらい力を抜いていたいんじゃないか」ということでしたので、なるほど、では仕方がないことなのだろうと思っていました。

ところが、今年の壮年大会で私の認識は間違っていることを思い知らされました。壮年の方々の伝道に対する情熱や神学生を全身全霊で支えていこうという熱い思いが天城山荘中に満ち溢れていたのです。神学校献金が目標額に到達しないから、目標額を少し下げて現実により近い形にしたほうがいいのかという提案に対して、「でもオレたちにはできない神学校の学びを、すべてを投げ打って必死に勉強している神学生がいるんだよ、オレたちにできることは彼らを全力でサポートすることではないか」と涙ながらに語る声があちこちからあがり、それから、「自分はこんなふうに神学校献金を教会で呼びかけている」という具体的な案を全国の方々が次々と教えてくださいました。壮年には内に秘めたものすごい情熱があることを知り、私の心も熱くされ、励まされ、大変感動しました。

「あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちら

かであってほしい。」(ヨハネの黙示録 3:15) と聖書は語ります。イエス・キリストが情熱をもって私たちを愛してくださったように、私たちもまた情熱をもって主を礼拝しあかししていきたい、そのような思いを壮年の方々からいただきました。東京地方連合の壮年の方々の熱さと熱さが融合し、どのように化学反応を起こすか大いに期待しています。私もまたその中の一員として、皆様と共に祈り合い、励まし合って福音宣教のわざにつとめていきたいと願っています。

第2回オープンフォーラムに参加して

中野バプテスト教会 木村晋治(きむら しんじ)

今年度、東京地方壮年連合が様々な困難な状況に対して「手をつけてゆく」一歩として企画された「オープンフォーラム」の第2回に参加しました。第2回のテーマは「東京バプテスト神学校の現状」と「3つの神学校の協働の可能性」でした。東京バプテスト神学校の坂元幸子校長から発題をいただき、その後、質疑と自由な「語り合い」が持たれました。第1回では時間が不足しましたが、今回は十分な時間が取られ良かったと思います。語り合いは多岐にわたりましたが、一部紹介いたします。

東京バプテスト神学校については、まず財政状況を中心にした現状について議論になりました。坂元校長からは、三連合内各教会の「神学校献金」(全国壮年会連合)と東京バプテスト神学校への献金の比率について、後者の割合のアップの訴えがあり、意見が交わされました。私の所属教会を含めて、「神学校献金」は献げている一方、東京バプテスト神学校への献金がゼロという教会も少なくありません。これは各教会の自覚的判断もあるでしょうが、「神学校献金」が内容としては、神学校そのものの運営のためではなく、神学生のための「奨学金献金」であることが十分理解されていないことによる議論の混乱もあると思われます。名称変更の検討を含めて、「神学校献金」の趣旨が各教会員に理解される対応が望まれます。個人的には、東京バプテスト神学校が「三連合立」であることを考えると、献金比率を含めてどのように支えていくか考えるべきではないかと思いました。

3つの神学校についての議論では、違いも際立ったように思います。とくに西南学院大学は、大学・大学院であり、教員・教育内容において、他の2神学校と違いがあるように思いました。また西南学院大学は、アカデミックな傾向が強いとの意見もありました。東京バプテスト神学校については、坂元校長は私見として、間口の広さを保ちつつ、専攻科(伝道者養成)の充実をしたいと語られましたが、賛

成です。バプテスタの伝道者養成はどうあるべきかという本質的なことであり、今回のテーマにもつながるものだと思います。

前回は今回も参加者の年齢層はかなり高いように思われました。共に祈り、厳しい現状を冷静に見据えつつも前を向き、幅広い世代の「壮年」の「開かれた語り合い」を期待します。

東京地方壮年連合 2019 年度定期総会(第 11 回定期総会)報告

2019 年 11 月 23 日(土) /常盤台教会/午前 11 時 00 分～12 時 20 分

出席教会：22、委任教会：18【40/56】過半数以上で総会成立(規約第 6 条 4.) 代議員出席者：29 名

議長：志築正治(市川大野)、副議長：鳥飼好男(市川八幡)

書記：木村晋治(中野)、栗本岳尚(市川大野)

【第 1 号議案】2018 活動報告、決算報告及び監査報告

1 活動報告：竹下達也前会長(恵泉)

2 決算報告：青柳 博(大泉) 監査報告：久場 俊男(恵泉)

佐藤(花野井)：ジェンダーレスが進む中で、壮年会はどうなっていくと考えているか。

議長：ご質問は活動報告ではなく壮年連合の位置づけにかかわることである。

活動の中でそういう議論がなされてたいたのであれば説明していただきたい。そうでなければ別のところで発言していただきたい。

竹下(恵泉)：活動の中でそういう議論は無い。ただ研修会では、女性を含め多くの方の参加を呼びかけ、参加していただいている。

【一括承認】

【第 2 号議案】2019 年度活動中間報告、決算見込み

活動説明：河野信一郎会長代務者(大久保) 決算見込み説明：青柳 博(大泉)

【一括承認】

【第 3 号議案】役員改選

会長代務者河野信一郎から、「現段階では規約上定められた役員改選は事実上無理である。現役員でもう 1 年やっていただける方は少なくとも 3 名おられるが、事務局長・会計・監査を立てることができない。また昨年に引き続き、会長候補も与えられていない。まず最初に議場に、会長・事務局長・会計・監査になっていただける方を募りたい。」と発言があった。

山田誠一(大井)：役員が決まらなかった場合、活動停止になるのか。

河野(大久保)：役員選出を現役員に一任いただき、役員を選出し、活動を行っていききたい。

山田(大井)：全国壮年会連合も支援したい。私としても東京の活動をサポートし関わっていききたい。

吉高叶（市川八幡）：事実はよく分かった。選任プロセスが滞っているわけだが、こういう状況になっている理由をどう分析しているか。

河野（大久保）：会長について、候補者に打診したがお断りされたことがあった。私自身、大久保教会牧師と地区宣教主事をしながら会長代務者をやっていく中で大変な思いもあった。その中でやはりリーダーシップをとって会長を担う方は信徒の方が良いと思い、ある方をお願いしたがお断りされた。それ以外の役員については、これまでボランティアで役員を担ってきた方々が高齢化して、役員として立っていくことが困難になってきたという事情がある。新しい方、若い方が加わってくださるのも難しい状況にある。

鈴木（花野井）：この場で、役員候補を推薦してもよいか。

河野（大久保）：うれしく思う。ただこの場で名前を挙げて推薦していただくことは避けたい。後ほど、役員会にお話しいただきたい。

竹下（恵泉）：女性連合は、各ブロックで積極的に活動している。各ブロックは総会組織を持たない。壮年会も、総会形式の組織ではなく、自由に活動ができる組織に変化をすれば、関わりやすく、自由度も増すのではないか。そこで連合との支援協力関係があれば、もっと自由に活動できるのではないか。

河野（大久保）：たしかに移行せざるを得ないと思う。1年という期間では難しい。2,3年で、役員会やもっとひろげた話し合いの中でできればと思う。大きい東京地方連合の中であるが、壮年ひとりひとりが真剣に向き合って、祈って、参加していくということがない限り、難しい時代に来ており、みなさんと話し合っていたらと思う。

議長：議事を整理する。規約上、監査は役員ではないので、省く。役員改選についての河野会長代務者の提案は、「現役員で残っていただける3名に加え、役員を担っていただける方の選出を現役員会に一任する」というものである。

青柳（大泉）：毎年、役員になってほしいということを訴えてきたが、どなたもいらっしやらなかった。加わってくださる信仰の友はいないのか。やってくれる人がいない中で、現役員会に役員選出を委託されても困る。

議長：「役員選出を現役員会に一任する」という河野会長代務者からの提案があった。議長は、「役員は総会で選出することになっているが、現役員会に委託することを含め、本総会で第3号議案として採決したい。」

【賛成多数、反対無、保留1】

【第4号議案】2020年度の活動計画、予算案

活動計画：河野信一郎会長代務者（大久保） 予算案：青柳 博（大泉）

【承認】

他の発言

石井規之（多摩みぎわ）：ジェンダーレスについて、女性連合と意見交換していくことはあるか。

河野（大久保）：東京地方連合の役員会に陪席しているが、女性会も役員の成り手が無いという状況にある。一緒にやっていく時代に差し掛かっているのかもしれない。考えていかないといけない。

山田（大井）：全国壮年会連合としては、今年の総会でそのことも含め伝道者養成を議論した。女性連合幹事とも話をしている。一つの信徒会として、一緒にやっていく可能性はある。そのあたりの情報は発信していきたい。東京地方壮年連合でも議論してほしい。

【今後の行事予定】

2020年01月11日（土）定例役員会 10:00～ 会場：大久保教会

02月15日（土）第3回オープンフォーラム

13:30～会場：大久保教会

講師：篠原健治（福岡国際バプテスト教会牧師）

2020年03月（土）定例役員会 10:00～ 会場：大久保教会

東京地方壮年連合通信の今後の発行予定は20年03月

お願い

東京地方壮年の皆さん

東京地方壮年連合が結成されて、来年3月でまる10年になります。しかし役員になってくださる方々がなく、困っています。交通費しか出なくて、ボランティアになりますが、なんとしても役員を担ってくださる方々を必要としています。皆さん、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

東京地方壮年連合 役員会

◇ 2019年度神学校献金(目標500万円)のお願い ◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。今年度も昨年度に続き、500万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

発行人：東京地方壮年連合会長 河野信一郎

編集人：佐藤洋二

2019 年度 東京地方壮年連合主催
第三回オープンフォーラム

今後の教会と神学教育と教役者について
真剣に語り合う「開かれた語り合いの場」

ザ・ファイナル

* 第一回、感謝！ テーマ：①神学校献金の現状

②西南学院神学部の現状と未来予想図

* 第二回、感謝！ テーマ：①東京バプテスト神学校の現状

②3つの神学校の協働の可能性

(西南学院神学部、東京バプテスト、九州バプテスト)

* 第三回 2020年2月15日(土) 13:30~16:00

テーマ：将来の牧師像～フルタイム、兼牧、兼職？

発題者： 篠原健治 福岡国際キリスト教会牧師

主題：「パウロのように～兼職は献職～」

ぜひ、ご参加ください

会場：大久保バプテスト教会 東京都新宿区新宿 7-26-22

最寄駅：大江戸線・副都心線 東新宿駅

A2 出口から徒歩3分

問い合わせ 03-3207-0307 カワノまで